

第2回「すみだタウンミーティング 子育てしやすいまちづくり」

日時：7月24日（日）10時から12時

子育て支援事業・施設について

1 待機児童について、区の現状と対策について教えてほしい。

区長：墨田区の待機児童については4月1日時点で134名。毎年区では施設整備を行っており、昨年では76名まで減少していたところではあるが、現在人口が急増しており、それに伴って待機児童も増加している。これを受けて区では28年度、29年度では、300名、500名ずつ、計800名の定員を増やす予定であり、区民のニーズに応え、安心して子育てができるまちづくりを実現する。

2 待機児童の内訳について、年齢別に教えてほしい。現在子どもが通っている保育園は2歳児までしか保育を行っておらず、転園を迫られている。3歳児クラスが足りていないように感じるが、現状どうなっているのか知りたい。

区長：区ではこれまで0・1・2歳児の保育を厚く整備してきた経緯があり、2歳児までの待機児童は減りつつある。保護者の皆さんに不安感を与えないためにも、今後連続した保育がスムーズに行えるよう整備する必要がある。

副参事（待機児童対策担当）：待機児童の年齢内訳について、0歳児は38人、1歳児は61人、2歳児は13人、3歳児は22人。3歳児の枠の確保は区でも深刻に捉えており、今後小規模だけではなく、3歳児以上の子どもの保育を行う認可保育所の整備にも力を入れていく。ちなみに昨年度時点で、2歳から3歳になる際に待機児童となったケースはなく、転園先が無かったということはなかったため、今後もこのようにしていきたい。

3 待機児童の定義について教えてほしい。

区長：定義によって出てくる数字が違う。職員から説明させていただく。

子ども課長：今年4月時点では、2000件以上の申込みがあった。1400人が入り、600人が希望したが入園できなかった。国が決めた基準では、認証保育所に入所した方、定期利用保育を利用する方、区内の保育園の中で自宅近くの徒歩圏内の保育園を1つだけ希望した方、育児休業を延長している方は待機児童としてはみなさないこととなっている。認証保育所に入りながら、認可保育園の入所を希望している方も待機児童としてはみなさない。これらの方々的人数を引いた数を待機児童数としている。（今年度134名）

4 実際にどのように待機児童を減らすのか。保育園を作ればよいということではなく、安全・安心な保育をしてほしい。

区長：墨田区は区内で7番目に面積の小さい区であり、場所の確保は難しいが、例えば公

園の土地や都保有の土地の利用等、今までにない発想・工夫での場所の確保に努めたい。それと同時に、保育の質を確保して、安心して預けられる保育園の整備していくことは大前提である。都・国の緩和策の中でも、墨田区に合う基準を設け、整備を行っていききたい。

副参事(待機児童対策担当): 子ども・子育て支援事業計画の中でも、保育の量だけでなく、質も高めていくことを定めている。これに則って、今後も安全・安心を第一に整備を行っていききたい。

子ども・子育て支援担当部長: 現在大横川親水公園に小規模保育所整備予定のほか、3か所の公有地利用等を考えている。

5 3歳児以降の保育について、認証では待機児童とは認められない他、ポイントも認可と比べて低い。認証では助成をもらっても保育料の負担も大きく、不平等だと感じる。

区長: 認可と認証の違いについて、違いをしっかりと考えたうえで改善に努め、施策を実行していかななくてはならないと考えている。2歳から3歳への接続について、しっかりと対応していきたい。

6 区内の認証保育所が少ない。認可を希望して役所に相談したところ、認証への申込みを勧められたが、墨田区の認証は7か所しかない。江東区は50か所以上ある。今後認可だけでなく、認証についても考えてほしい。現状の課題を知りたい。

区長: 他区からいらした方について、墨田区に来てよかったと感じてもらえるよう努めたい。認可の定員増のほかに、認証についても検討していかななくてはならないと考えている。

子ども・子育て支援担当部長: 区としては、認可保育園を特に整備していきたいと考えている。現在の認証保育所については、認可となるように手助けしていきたい。

7 現在0歳児を育てていて、来年の入所を考えているが、不安を感じている。待機児童について、基準の考え方と実際の区民の感覚が違うと感じる。ゆりかごすみだでも、区民の意見を吸い上げてもらうなど、区民の声を聞いて子育てしやすいまちづくりを実現してほしい。

区長: 区として、待機児童の考え方を深めていくべきであり、数字にとらわれすぎではなく、区民の皆さんの実際の状況や不安を考えていくことが大切だと感じている。

子ども・子育て支援担当部長: 墨田の小学生は1学年約1800人、0歳児は約2400人であり、新生児が増えている。これを前提に事業を進める必要があると認識している。墨田区ではこれまでの3年間でも1000人の定員増をしてきたが、これからの2年で800人増をする。800人の根拠については担当から説明する。

副参事(待機児童対策担当): 800人の根拠については、今年の定員と待機児童数を足し合わせ、入園を希望していた総数をもとに計算している。また潜在的ニーズも考慮し、現在お子さんを施設に預けているかどうかにかかわらず、預けたいという希望のある方につい

て調査した数字も反映させて保育所の整備計画を立てている。

子育てについて相談できる人・場所について

8 一時保育のはぐ、ファミリーサポートを利用しているが、サポーターの人数をもっと増やしてほしい。

区長：施設等を増やすだけでなく、このような支援サービスを整えていくことも子育て支援事業において重要。今後人数等制度を充実させていきたい。また、同時にこのようなサービスをしっかりとお知らせしていくことも重要だと考えている。

子育て支援総合センター館長：指摘のとおり、登録サポーターの人数が少ない。(利用会員818名、登録サポーター158名。)今年度から、老人クラブ等でもPRをしている。またサポーター講座も年に複数回行う等、サポーターを増やす取組を今後も続けていきたい。

9 もっと多くの保育園での病後児保育を行ってほしい。子どもが体調不良の際、出勤前に多くの荷物を持って、いつもと違う保育所に行くのは負担が大きい。

区長：医療的なケアとの兼ね合いで現在の形をとってはいるが、一般の保育と病児保育を組み合わせしていくことは重要なテーマだと考えている。

子育て支援課長：現在墨東病院の院内駐車場で病児保育を行っている。病後児保育は区内の数園で行っている。病児保育所について様々な要望をいただいているため、スタッフや場所の制約をクリアできるよう病院等と相談している。

質問者：病後児保育について教えてほしい。

子育て支援総合センター館長：医療機関で発行する診療情報提供書に病後児保育が可能である、という記載がある場合、はぐのスタッフが訪問し、自宅で保育を行うことができる。保育時には、サポーターが定期的な検温の結果、食事の量等報告書にまとめて保護者に提出している。

10 今後の子育てについて、墨田区の先輩ママさんと交流できる場がほしい。

区長：「人つながる墨田区」として、相談窓口の整備や、子育て世代の方々の交流の場を整えていきたい。

子育て支援総合センター館長：子ども子育て新制度の中で、子どもの成長に伴って相談窓口を整えることを予定している。また今後区内の全児童館で相談体制を整える。はぐのサポーターさんなどにも相談してほしい。

11 これまで7人の子育てをしてきた経験から、些細なことを相談できる人が身近にいることが大切だと感じている。子育てを終えた世代で、手助けをしたいと思っている人も多いため、双方をつなぐような工夫が必要である。

区長：墨田区ならではの仕組みづくりに努めたい。

12 今年の4月に押上に越してきたため、地域のことがわからない。また、区の相談時間は平日の日中が対象時間になっているため、産休前の妊娠中には利用できない。

区長：区の事業の対応時間について、具体的な意見をいただいた。参考にしていきたい。

子育て支援課長：保育園の入園についての悩み等は、保育コンシェルジュ制度を利用してほしい。時間外についても、子育て支援課で対応していきたい。

子育て支援総合センター館長：センターは平日午後6時までであるが、土日には子育てひろばが開設されているため、そちらを利用してほしい。

子ども課長：区内全公立保育園と一部の私立保育園では子育て安心ステーション事業を行っており、育児相談に応じたり、保育園の給食を紹介したりといったことをしている。ぜひ利用してほしい。

13 平日仕事の休みを取って今後の子育てについて相談しに来庁したところ、担当職員の対応が悪かった。丁寧に案内をしてほしい。

区長：このような意見をいただけて大変ありがたい。職員の対応について、事実を確認し、改善していきたい。また、父親サポート等今後も力を入れて整備していきたい。

子育て支援課長：失礼な対応をしてしまい申し訳ない。

子育て支援総合センター館長：父親の育児参加について、子育てひろばではイクメンサークルを立ち上げるなどの活動を行っている。ぜひ参加してほしい。

14 区の発行物について、毎年更新されていないのが残念。また保育園卒業後、放課後の居場所がないという、小学校一年生の壁について心配している。

区長：放課後の居場所づくりについて、区として整備していかななくてはいけないと考えている。子育てニーズ調査の結果を踏まえながら、総合的に対策していきたい。

子ども課長：小学校一年生について、加点を大きくしているため、学童での待機は現在はない。また区では新たな学童建設の予定があり、定員を増やす努力をしている。

15 家庭センターの閉館によって、子どもの遊び場がなくなってしまった。跡地の利用計画について教えてほしい。また緑町周辺に児童館がなく、安全な遊び場がないため困っている。

区長：地域ごと、学校ごとの放課後の安全な居場所づくりが必要であると考えている。現在学校の耐震化を行っており、児童館の整備については増やすだけでなく、機能の充実等を行っていきたい。

子ども・子育て支援担当部長：家庭センターの跡地は認定子ども園または保育所とする予定。また学童クラブについては亀沢保育園に設置し、定員枠の拡大を予定している。

16 子育ての支援を行いたい。楽な気持ちで相談できる相談役になりたい。行政に仲立ちしてほしい。また、子育て支援施設について、民間の良さを利用して充実させてほしい。

区長：子育てを終えた方々に御意見をいただけて大変ありがたい。子育て世代、子育てを終えた世代の交流・マッチングについて、区としてできることを研究していきたい。また今後高架下など、子どもの遊び場として活用してみたい。

子ども・子育て支援担当部長：700 平米の子ども未来館を設計中。平成 30 年度完成を目標としている。子育てひろばの機能も持たせていきたい。

その他

17 子育て世代と子育てを終えた世代のマッチングについて、民間で行っているところがある。民間の力を使って実現してほしい。

区長：子育て支援事業について、今日頂いたさまざまな意見・ニーズを反映させ、やさしい墨田区を作っていきたい。